

■ 浦会長の新年挨拶

会員みなさま 新年おめでとうございます。

JIPATは設立から13年目になり、いまや誰でも入会できる会に生まれ変わりました。常設委員会は広報室を含め6委員会、特別委員会は3委員会を数えて活発な活動を行っております。また主体的にご協力しているJIPA主催のIPEC21は今年で7回を数えようという盛会ぶりです。

しかし会員の数は400人を割り、だんだん減っている状況にあることも残念ながら確かなことです。私たちはいろいろな機会を通じて、インテリアプランナーの姿を社会に正しく伝え、理解を得ていく必要があります。出版やシンポジウム、交流、見学といった活動を通してそれを実践する段階にきているのです。プランニングとは生活空間そのものの計画にほかならず、最も大切な部分を担う分野になることは明らかです。私たちの日々の活動自体が大きな意味をもつことを自覚し、JIPATはますます発展しなければなりません。会員の皆様のご活躍を期待いたします。

2007年年頭に 会長 浦 一也



■ 2007年新年交流会のお知らせ

平成19年が会員の皆様にとって良い年であります様、新年の気持ちを新たに、正会員・一般会員・法人会員の皆様、多くの方にご参加頂き、共に交流を深め、グラスを片手に新春を祝いたいと思います。

会場も新たに、新年の交流会を企画しましたので皆様お誘いあわせの上、是非とも参加いただきますようご案内申し上げます。

日 時：2007年1月19日(金)18:30~20:30 (18:00受付)

場 所：「全国町村会館」2F『ホール』

千代田区永田町1-11-35 TEL 03-3581-0471

会 費：6,000円/1人

(正会員・一般会員・法人会員共/学生半額)

東京インテリアプランナー協会

2006年度に当協会にご入会いただいた新入正会員・一般会員の皆様につきましてはご招待とさせていただきます。協会からの招待状をお受け取りいただいていると思います。ぜひともご参加ください。



■ 『IPEC21は変わりました』

IPEC21は昨年で6回目となり、インテリアのプロと企業がコラボレーションして、未来への足がかりを見だし、また、発展させる交流の場として定着してきました。今回の登録入場者数は33,857名と前年実績の2倍を超えました。メインテーマは本年度も、昨年に引き続き「ひと 環境 デザイン」を継続しましたが、今回から(社)日本インテリアファブリックス協会主催のJAPANTEXとの同時開催となったことを踏まえ、新たに『彩』をキーワードとして加え、内容の充実を計りました。



展示風景

IPEC21実行委員会副委員長 下田 濟二郎

今回の会期は1日増え、11月22日(水)から25日(土)までの4日間でした。会場アトリウムでは、JAPANTEXとの共同企画を、HOTPOINTと名付け、その中でデザイナーズショーケースも拡大展開し、質の高さも良く見えました。展示会場では、新しい企画として「100マテリアルズ」というインテリアに関係する素材そのものを展示するコーナーも加え、より多彩で魅力的な展示会に仕上げました。また、入り口近くでは、JIPATの法人会員の方たちによる、アピールも展示され、多くの優秀な企業と協力しながら、協会そして、IPEC21が運営されていることが示されました。会期中、東ホールでは東京国際家具見本市、国際木工機械展も開催され、トータルにインテリア情報が受信されました。インテリアプランナー等設計業界、ファブリックス業界、家具業界及び各種クリエイターが一堂に集まることによりインテリア業界の活性化をはかり、一度にインテリアの全体像が浮き上がるという、名実ともに「インテリアの総合展示会」として確立され、来場者にとっても有意義な場とすることが出来ました。

■ 途中下車

銀座のステーキハウスの改修を引き受け8日間で仕上げるスケジュール。夕方5時から26時までは作業が出来ない厳しい条件ではじめた。オール電化なので残すものはほとんどなし。客室の床のみ残すという過酷な工事であった、なんとかスケジュールをこなし、施主に引き渡すことができた。ある日突然電話がなり、ネズミがでるのでなんとかしろ！カウンターの下立ち上げの床下の工事が時間的余裕がなく塞がないでカウンターを施工したツケが廻ってきた。カウンターの下20センチ程のすき間から床の立ち上がりブロックをつめパテで塞いだ。ところが銀座のネズミはしぶとい。2センチ程の穴から、電気配線のすき間からまだ出てくる。さあ困った。音で撃退の方法あり、薬を散布する、音は限られた空間には効果があるが広い場所では全く役に立たない。薬は飲食店では臭いが出るのでダメ。別件で

インサレーション



1. 難燃指定の現場に対応
2. 2液なので速硬化・高品質
3. 微塵発生可能なガンで施工が楽々
4. 指定VOC[®]を含まないので安心



JIS A1321難燃3級試験に合格し、燃焼吹き付けウレタンと同様のクリーム色フォームの難燃タイプです。防錆型ポンペタイプでは国内唯一の製品です。

ABC商会に出向いた時、ウレタン等の断熱材で吹きつけはないかと尋ねる。ご返事をしますとのこと。翌日電話があり(インサ

ルパック)と言う品を教えてください、至急取り寄せ実験。すぐに固まり、強度も抜群臭いも少なく、早速施工した。施工も短時間で出来上がりもきれいで、それ以降、本日までネズミは出ていない。

■ 町名由来板

古川柳に謳われた、初夢は「一富士、二鷹、三なすび」は実は近場にあります。本日はこの町内をご案内します。

駒込寺町散歩
KOMAGONE TERAMACHI WALK



江戸時代日光本街道は、日本橋から宇都宮まで奥州街道と重複していました、二代将軍秀忠の時に日光参拝がはじまった。その際将軍家の行列が奥州街道を通ると警備も難しくまた、込み合うことから、

日光御成り街道として岩槻街道をあらたに整備して、日本橋-本郷-駒込-王子-川口-鳩ヶ谷-岩槻をへて幸手で本街道と合流した。その最初の宿場町が駒込村であった。参内の行列が通る時、男は家の前を出て土下座をして女子供は家のなかで座ってお辞儀をしなければならなかった。

その頃、富士信仰（富士講）が流行した。富士山に登れない人のために、市中に模型の富士山が多数造られ、その中でも駒込の富士神社が代表格で、『お富士さん』として江戸庶民に親しまれた。

二鷹の、鷹狩りは“家康江戸にあり”を示すため、裏切りものを牽制すること、でもあったようで、鷹匠は大事にされ、駒込に広い『御鷹匠屋敷』を与えられていた。その跡地は今では都立駒込病院となっており、昔を偲ぶことはできず、その場所に近い『天祖神社』に石柱『御鷹組』がひっそり立っている。

三なすびの、なすびは、主食のお米は全国から取り寄せられたが、一番困ったのは新鮮な野菜の不足で、江戸城内でも野菜を栽培した記録があり、多くの大名達は国元から百姓を呼び寄せ下屋敷などで野菜を作らせた。この駒込の富士神社の周辺でも、各種の野菜栽培が生産され、特にナスは優れたものが出来たことから「駒込ナス」として江戸庶民に好まれ、徳川幕府が発行した「新編武蔵風土記稿」にも記されている。特に家康公はナスが好物であったそうで、江戸庶民はナスの値が高く、なかなか食すことができなかったことから、高値の、なすびとなったのでは。

■ 故人をしのぶ

白川 静先生が昨年10月30日なくなりました。96才でした。以前お会いした時にお話をお聞きしたことがあり、残念でなりません。

お会いした時建物の建てるという字は、聿と廴を組み合わせて作った、聿は筆で廴は儀礼を行う中庭の周囲の壁。中庭に筆を立てて方位や地相を占って、標柱を立てて儀礼を行った。そこから建物をつくることを建築とか建設と言うようになったと、ま

た家はもともと先祖を祭る廟であるが、これを中心にして家族が住んだので人の住む家となったんだと、あいまいな記憶で多少違っているかも知れないが、強烈なインパクトのあるお話でした。71才で立命館大学教授職を辞して後、漢字辞典三部作「字統」84年、「字訓」87年、「字通」96年を発表。2004年94才で文化勲章を受賞。このバイタリティーは「ひたすら本を読んでいたい」。

情報委員 井上 常雄

■ 入退会者

入会 一般会員 藤本 文明氏

退会 正会員 竹花 正氏 森田 昌明氏 秋野 泰司氏
猪川 睦夫氏
法人会員 日本調理器株式会社

■ 編集後記

夢を求めて駒込を歩いたのですが、富士神社の社はコンクリート造りで、鷹匠の住まいが有ったという動坂遺跡も石柱のみ、ナスがとれたであろう富士前公園も単なる公園で、なぜ現代人は夢を大切にしないのか憤りさえ覚えた。

情報委員 編集長 井上